
なのは達が攻略されました！？

朝霧零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なのは達が攻略されました！？

【Nコード】

N3307N

【作者名】

朝霧零

【あらすじ】

テンプレ転生を果たした主人公。

神から貰った能力でどう生きるのか？ 戦わなければ生き残れない

！ってことはない！？

ギャグ主体でシリアスは気が向いたらあるかも…テンプレ無しでお送りします。

基本的に亀更新。暇つぶし程度で読んで下さい。

ブローグ ありきたりな転生？

ここはどこだろうか？

一面真っ白な空間。見渡す限り白一色。

ここまで何もないと落ち着かない。

「ここは死後の空間だ」

いきなり声がした。

姿はどこにも見えないが……。

「……私語？ おしゃべりでもすんのか？」

周りに人がいないが？

この声の人も暇なのだろうか？

てかこの人誰？

「違う。君が死んだ後の場所だ」

「あゝ俺死んだの？ まじかあゝ」

死んだのか？

死んだ瞬間の記憶が無いから微妙だ。

死因はなんだったのか……バナナ。

ん？ なぜバナナが思い浮かんだ？

というより本当に死んだのか？

「死んだぞ」

きっぱり言われた。
やっぱり死んだのか。

「ふん、そっか」

「冷めとるの」

「ん？ あゝ実感が無いだけかな？ で、これから俺どうなんの？」
てか、いきなりお前死んだなんて言われても、普通にアクション取れねえぞ？

死んだ時の記憶があるならまだしも…

感覚的には気づいたらここにいたってただけだし。

しかも、しゃべってる奴だれかわからんし。

これで神とかだったら…ねえ？

なんたる、なんかテンプレ的予感。

まさか死因は転生ト…なわけ無いよね？

はは、まさか。

「転生させてやろっ」

「……………」

「どうした？」

「アニメの世界に転生及び好きな能力をくれてやるとか言いますか？」

「その通りだ。しかし、能力は3つまでだ」

本当に言っちゃったよ!?

ていうことは、この人って神とか!?

「あなたは神様?」

「その通りだ。さて、能力はどうする?」

やっぱり神か…

にわかに信じられないが俺にはどうしようもないしなあ。

ふむ、転生オリ主フラグが立ったのなら一つ目の能力はあれしかないだろう!

せっかくだし俺の夢とロマンでも叶えようかな!!

「一つ目は……」

「ふむ、一つ目は? 固有結界か? 魔力に気の無限チートか?」

「男としての魅力をくれ!」

うむ、これしかないだろう!

「……はあ? 魅力とな」

「そうだ! ギャルゲーの主人公並の魅力を!」

「…あゝちなみに転生先は魔法少女でリリ狩るマジ狩るなNANO HAの世界だぞ」

「なるほど! ならなおさら都合がいい!」

なのはにフェイト、はやて、さらにリンディさんや美由希さんまで！
夢が広がるぜ！！

本命は桃子さんにフィアッセさん、那美さんだけどね！！
んゝ大穴で美沙斗さんもいいしゝシャルさんもOKだね！
ちなみに俺はとらハファンですよ。

つまり！　なのはを可愛いなのはにしてやんよ！

「あゝ力は欲しくないのかね？」

「ん？　だから魅”力”が欲しい！」

ただの転生者っただけでモテるわけがない！

ならば転生して残念な結果にならないようにこの力は必須だろう！
偉い人にそれがわからんのですよ！！

「あゝなら二つ目は？　次こそ魔法とかが良いと思うのだが？　紅
い弓兵の力とかの」

「俺もそう思っていた。そしてもう既に決めている！
そう！　あの力を知っている人なら一度は憧れる（　ただの偏見）
能力！」

「うむうむ。　皆まで言わずとも分かっただるわい。　あの男の力」

「そう！　あの男の力！」

やはり神もあの力を知っていたか！

「アーチャーの無限の剣製だの？」　「朝倉さんちの手から和菓子を出す力だ！」

「……すまんの。最近耳が遠くての。もう一度言ってもらえるか？」

「ダ・ーポの朝 純一の手から和菓子を出す力だ！」

「……なぜじゃ？（汗）」

「なぜって！？ 泣いてる女の子を笑顔にする最高の魔法だぞ！？」

「お前の行く世界は危険に満ちた世界だが？」

「ハーレム王に俺はなる！！」

「はあ、おまけに他人の夢を見る能力もくれてやるわい」

戦いは出来る奴がやれば良い！

へたれ？ 気にしません！

僕が守るのは体じゃない！ 心を守るんだ！

別に痛いのが嫌いだからじゃないんだから！

「最後の能力は何だ…さすがに何か身を守る能力がないとまずくはないか？」

「確かに身を守るものは必要か……これは慎重に選ぶ必要があると思うだ」

「そうじゃろ。 王の財宝などどうじゃ？」

「むむっ」

この神さつきから運命ネタが多くね？

しかし、身を守るかあゝ。

ならばこれしかない！

「綾崎八 テ並みの身体能力と執事能力を！！」

「……どうしたらそんな結論になるんじゃない？」

「へ？ この能力あれば月村で雇ってくれそうじゃない？」

「自分の力で身を守る発想はないのか（呆れ）」

「え？ 自分の能力を提供する代わりに守ってもらうのも自衛に入るでしょ？」

「だめだこいつ！ 早く何とかしないと！！」

「なんだよケチゝなんでもいっていったじゃんかよゝ」

「ぐうゝ……仕方ないいいだろう」

「よっしゃ！ さんきゅー！」

「しかし！ SSSランクの魔力は授けるぞ！」

「だが断る！」

「な・ぜ・じゃー！？」

「そんなことされたら戦う羽目になる！ チートよくない」

「しかし！」

「なら幸運を上げてくれれば十分です！」

「むむ…ラッキーン並か？」

「それは嫌だ。あいつはアンラッキーの中でしかラッキーを感じられないじゃないか！ 本当にラッキーなら事件に巻き込まれん！」

「なら例えば誰だ？」

「ベルンディとか」

「それってチートでね？」

「俺が不幸にならなければそれでいい」

「……ええーい！ 適当に幸運は上げておくわい！」

「どのくらい？」

「少なくともどっかの螢よりはラッキーだわい！」

「ならOK！」

「はあーこんな疲れる転生者は初めてじゃ…」

ひびい！

俺は欲望に忠実なだけなのに！

「では、送るかの」

「そういえば、どうして俺を転生させてくれんだ？」

もしかして、俺神に殺された？

もしくは、すごい使命を帯びてるとか？

「それはだの……」

「それは？」

「お主が私の捨てたバナナの皮に滑って階段から落ちて死んだからじゃ」

「……今俺、戦場ヶ原の気持ちが少し分かったかも」

「まあ、すまんの。では、さらば」

「軽いね!？」

ブログ ありきたりな転生？（後書き）

後書きを見ているって事は読んでいただけたということですよ！
ありがとうございます！！

基本思い付きで書いているのでキャラブレや設定の矛盾なんかも出てくるかもしれませんが、ほぼ自己満足で書いているのでご容赦ください。

感想等と言って頂ければ頑張って改訂するやもしれません…時間とかがあれば。

誤字脱字はどんどん願います！

こんな作者ですが、お付き合い頂けたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3307n/>

なのは達が攻略されました！？

2010年10月9日13時07分発行